我が町のかんばん娘（シリーズ②）

株式会社塚田牛乳
残間由美子さん（小杉下）
（24歳、A型、てんびん座）

会社に勤めて四年目の彼女は、総務部の経理課で電話応対や事務処理の担当をしています。

牛乳と言えば一日の始まりである「朝」を連想する彼女の職場の魅力は、職員の方々に活気があり、職場全体が明るいこと。また、工場見学を通じて地域の人々との交流があること。

趣味は、卵料理を中心としたバラエティ豊かな料理を作ることで、自分の昼食や家での料理作りも行う。そのほか体を動かすことが好きで、中学・短大でやっていたバレーボールや高校で行ったバドミントンなどで汗を流すこと。

休日の過ごし方は、雑誌で見つけた店に友達と食べに行ったり、家でのんびりと読書をしたり音楽鑑賞をすること。

将来の夢は、誰もがうらやむ家庭を作ること。世界の有名な観光地を訪れること。

理想の男性は、話がおもしろく、一緒にいて頼りになる人。

姉妹村 美浦村とのホット情報交換（その11）

美浦村は古くから霞ヶ浦とともに生きてきた①

ご存知のように美浦村は霞ヶ浦の湖岸に位置しており、そこには太古から人が暮らし、豊かな湖岸文化を育んできました…。そこで今回は、この『霞ヶ浦』の成り立ちなどを紹介します。

昔は「流海」と呼ばれた海でした

コイ・ワカサギ・シラウオ・エビなど
みんな湖からの贈り物

霞ヶ浦は琵琶湖に次いで、国内第二の広さを誇る湖です。面積二二〇平方キロメートル、平均水深四メートル、大小五十六本の河川が流入しています。古くは漁業や水運、そして現在でも飲料水や産業用水の水源として広く流域の人々の暮らしを支える恵み豊かな湖です。

ところで、霞ヶ浦が誕生したのはいつ頃でしょうか？。その成り立ちは、海の一部が外海から分離してできる海跡湖で、原形ができたのは今から約六千年前の縄文海進期です。川から運ばれた土砂が徐々に出口をせき止め、現在のような霞ヶ浦が誕生したと言われています。また、当時の安中台地（村の東側の地区）が海に浮かぶ小さな島であったようです。

霞ヶ浦という呼称が定着したのは江戸時代になってからです。名前の由来には諸説ありますが、奈良時代の『常陸国風土記』には「流海」として登場し、後に流域一体が「香澄の里」と呼ばれたことから、それが転じて霞ヶ浦と呼ばれるようになったとも言われています。

また、霞ヶ浦は自然の宝庫でもあります。美浦村の湖岸でもコサギやカイツブリなど四季を通じて水鳥を見ることができるほか、湖畔にはアシやマコモなどの植物が繁茂しています。上空から見ると筑波山を従えて光りに輝く湖面が美しく、一帯が「水郷筑波国定公園」として親しまれる理由がうなずけます。

豊かな湖岸文化を育んできた美浦村の霞ヶ浦

ふる里物語 町史編さんだより㉚

生活の中の口伝え言葉（俗信）

昔の人たちが残していった口伝えの言葉には、人間生活上に必要な躾、生活行動への諭や戒めを内容とするものが多くあります。これらを総じて「俗信」と呼んでいます。

恙虫は、かつて阿賀野川、信濃川流域の風土病として恐れられ、恙虫に起因した諺や俗信が横越町でも多くあります。

「黒瀬、窪川原に嫁婿くれんな」の諺、「萱野にションベンするな」の禁忌、「茗荷の葉束を腰に差したり、背中に担いで行く」「七面様の御札を持参する」「天王様にお参りする」などの厄除けの風習もあります。

お産や病気の神仏への祈願療法とした、川根谷内妙泰寺の胞姫様も有名です。「参拝すれば安産する」「乳が出ないときや不妊などで、写真を預けると治る」とか、子どもの疳や体の弱い子どもは、参詣すれば治るというご利益があると伝えられています。

木津光明院の薬師祭りは、毎年五月七・八日に行われ、「新津の秋葉祭りが雨なら、木津薬師は晴れる」といわれています。また七月二十八日には、火渡りも行われ、近郷近在からの参拝でにぎわっています。そんなことから、「木津は二度の萱刈り、三度の薬師」といわれ、行事のたびにご馳走が食べられるといわれていました。目の悪い人は、「木津薬師の井戸水を分けてもらい、患部をたでると治る」と伝えられています。

沢海七面様の祭礼

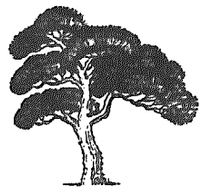
子どもたちのクサシ言葉（けなし言葉）に「小杉のガエルマチョ（おたまじゃくしのこと）、しっぽ切ってチョンチョンチョ」「藤山のガエルマチョ、水がねぇでコチャコチャ」とか、小阿賀野川を挟んで子どもたちは、「大蔵、七日町はホイトコ（乞食）の出どこ」と野次れば、「大蔵の大根汁、木津のきのこ汁、悔しかったら泳いでこい」と野次り返す。「七日町、大蔵の貝（法螺貝）の音は横越の田の肥やし」という諺もあって、度重なる洪水の悲哀を知ることができます。

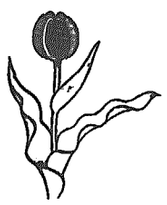
民俗部会では、横越町には三階層の民俗があると想定しています。「地主は塩引き小作は塩鱒」で、それをうかがうことができます。

（民俗部会　泉沢宏一）

※文中で差別的な表現・用語もありますが、それを言い替えますと俗信そのものが損われますので、そのまま使用しました。ご了承ください。

横越町
推奨の木・指定の花





広報8月号でもお知らせしましたが、昨年、町制施行推進委員会で推奨の木と指定の花が決まりました。

推奨の木は、マツ、ウメ、サツキ、モミジ、サザンカ、コブシ、キンモクセイ。

指定の花は、チューリップ。

町民皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

県広報コンクール 一枚写真の部で入選

平成八年度（第三十四回）新潟県広報コンクールで、横越町が一枚写真の部で最優秀賞に次ぐ入選を受賞しました。

県内の各市町村より六十四点の応募があり、その中より選ばれた作品は、平成八年六月号の広報よこごしの表紙「はやく作ってよ　竹とんぼ」です。